

医療法人 福生会 斎藤労災病院

日本医療機能評価機構認定病院

人間ドック・健診施設機能評価認定病院

労働衛生機関評価機構認定病院

労災二次健康診断等給付指定医療機関

まごころ

変化する医療情勢の中で ～当院の近況～

理事長 斎藤順之

初夏の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

さて、今の医療・介護業界を見渡しますと必ずしも順風満帆に推移しているとは言えません。介護保険を舞台とした不正問題や、医療の質、さらには健康問題等も連日新聞等で大きく取り上げられており、生活に最も密着しているこの「医療と健康」に携わる我々の使命の大きさを日々強く感じながら診療にあたっているところです。

当院は先代理事長がこの地に診療所として開設して60年、病院としてはまもなく58年診療を続けて来ました。この間、地域での役割を広げつつ、地元からの信頼を強固なものにして参りました。現在、診療部門では内科・外科・整形外科・一般病床・療養病床を有し、介護部門として介護療養病床と居宅介

護支援事業、健康管理部門として健康管理センター事業を展開させて頂いております。お陰さまで、院長以下、医師、看護師、コメディカル、事務系職員等の連携も益々強まっており、皆様の健康・命を守る使命に向かう意識を病院全体で強化している所です。当院が皆様にもっと何か提供できるものはないか、我々の機能が生かせる場を求めて今後さらに意識を強くしていく所存です。

制度がめまぐるしく変化する医療界、患者様や受診される皆様もご不明な点はどうぞお気軽に当院スタッフにお声がけ下さい。（不明な点は調べてお答えさせていただきます。）医療こそコミュニケーションが大切だと私は考えております。対話は信頼の基本であります。どうぞこれからも当院を「一番のかかりつけ」にいただき、信頼される「町一番のやさしさ・まごころあふれる病院」となるべく努力する所存です。今後とも当院を宜しくお願い申し上げます。

目次:

PAGE

理事長より	1
充実する院内研修・勉強会	2
当院の災害対策	2
労働衛生サービス機能評価更新	3
部署紹介～リハビリテーション科～	3
シリーズ診療 Q&A	4



ますます充実 院内研修・勉強会



新人研修

当院では年間の教育・研修スケジュールにより様々なプログラムが用意され、実施されています。左の写真は今年度の新人研修と看護部勉強会の1コマです。

新人研修では院長による当院の沿革、理念や就業規則、個人情報保護法等の法令や院内マニュアルの遵守等について説明されます。職種によっては初めて病院で勤務する方も多いため、企業等との違いに戸惑いを感じる方もいるようですが、研修を通じて直ぐに 当院に馴染みプロとしての自覚が生れています。



看護部勉強会



健診研修

接遇研修は医師も含め全員必須

「医師が接遇研修を受ける事で、患者様とのコミュニケーションがさらに円滑に進むのです。」と石井総務部長(教育研修委員長)

どの職種でもコミュニケーションはとても重要です。特に私達医療人は自分達が話す事より聞く事の大切さを学びます。当院では接遇研修に特に力を入れています。全体研修では医師も生徒の一人となり、熱心に受講します。

また、看護部勉強会では病棟単位で日頃の看護の中でのテーマを掘り下げ、研究した成果を持ち寄り、皆で討議を行います。最後に主任、看護部長の「厳しい」評価を受け明日からの看護に磨きをかけていきます。

研修・勉強会を通じて業務の質を上げる事も重要ですが、同じ目標を持ってチームワークで業務を進めていく。これこそがチーム医療なのです。



また、職域ごとの接遇研修を行い、例えば健診部門の研修(左写真)では、巡回健康診断の現場で起こり得る場面を想定した受診者とのやり取りを、ロールプレイングで研修し、その後グループ討議をしながら研究していきます。ロールプレイングでは楽しさの中にもリアリティーがあり、研修の成果が実際の業務の中に生かされています。接遇研修は積重ねが大切だと考えています。

当院の災害対策について



「災害訓練の徹底により非常事態でも慌てる事のない対応を」

当院では繰り返し訓練を行う事で災害時の職員個々の動きがバラバラにならないように「体に覚えさせる」努力を行っています。

「今、災害が起きたらどうするか考える時間を持つ事が大切」と、林放射線科室長(防災対策委員長)は訓練時には

いつも職員に伝えていきます。年間2回の定期訓練の他、臨時訓練、夜間緊急連絡訓練、想定外訓練等を行っています。

左の写真は先日行われた院内消火設備取扱い訓練の様子です。院内全ての消火設備を取り出して実際に使う事を想定した訓練です。

万が一、使う事態が起きようとも、落ち着いて行動できるように繰り返し訓練をします。



労働衛生サービス機関の再認定

6月1日付けで当院は労働衛生サービス機能評価機構の行なう第三者機関認定を更新する事ができました。

この認定は巡回健康診断事業と院内健康診断機能について、19領域、約300項目に及んで質の高い健診が提供できる基準をクリアしているかどうか客観的にチェックを行い、全ての項目について一定水準以上にあると認められた機関に認定証が発行されるものです。3年に一度、更新を求められ、3年前に初回認定を受けた当院は、

初めての更新作業に挑みました。

前回の受審の際には、質の高い健康診断を行なう為のマニュアルや組織が有る事が最優先で調査されましたが、今回は更新なので、そのマニュアルが実際に活かされているか、組織は連携して動いているか、精度管理はその質を維持しているかを中心に審査されました。普段私達が行なっている業務を十分プレゼンテーションする事が出来たと実感しました。



現在、全国わずか15機関のみの「優」評価

現在、この評価を受けている医療・健診機関は全国で125機関あり、今回、私達は最高評価「優」をいただく事が出来ました。この質を維持し、更に質の高い健診が提供できるように努力致します。

健康診断の役割は、来年度から保険者に義務付けされる特定健康診断・特定保健指導を控え、生活習慣病予防（メタボリックシンドローム）の流れを受

け、ますます重要な位置付けとなると考えられています。

当院は人間ドック、来院健康診断、巡回健康診断、健康増進事業を行なう健康管理センターを有しています。今後ますます質と機能を充実させ皆様に信頼される健診施設となるよう努力していきます。

皆様のご利用をお待ちしております。



部署紹介 ～リハビリテーション科～

リハビリ室では種々の病気や外傷による身体機能の低下や痛みなどに対して、セラピストによる機能訓練や治療のほか、患者様の症状に合わせて各種の治療機器を用いて機能改善や症状緩和に取り組んでおります。

スタッフが明るいだけでなく、訓練室も

自然光を取り入れる天窓がたくさんあり、とても明るい部屋となっています。

今後も皆様の一日も早い回復の為、スタッフ一同、全力で治療に当たらせていただきます。また、リハビリに関するご質問・ご相談等ございましたら、お気軽にお声をかけてください。



シリーズ診療Q&A

～教えてDr.～

「お答えします！」

内科 松井 一篤 医師

Q.漢方薬とはどんなお薬なのでしょう？

A.現在使用されている漢方薬の大部分は、中国の漢の時代以降の古典にルーツがあり、何種類かの生薬が一定の分量比で配合され一つの処方構成しています。

長い時代にわたる使用経験を経て、使用目標が確立され、また有効性が実証された薬と申せましょう。

これが、いわゆる民間薬との大きな違いです。

実際に、小児、高齢者を含むすべての年齢層に、また医学のほぼすべての領域において用いられており、西洋医学的に見ても確かなデータがそろいつつあります。

Q.今飲んでいる他の薬と併用できますか？

A.一部、他の西洋薬との併用が望ましくない、あるいは禁忌となる場合もありますので、必ずご相談下さい。

Q.日本ではどこでも漢方薬は処方していただけるのでしょうか？

A.医師免許さえあれば、どの施設でも漢方は処方出来ますし、また薬局で買い求めることも可能です。しかし、症状、病名に対し、安直に薬を処方すると、本当の漢方治療を行うこととは、全く次元が異なります。漢方医学の原則に従い、使用目標を見極めることによって、治療成績は格段にアップしますし、副作用の出現も抑えることが出来ます。

～病院からのお知らせ～

- 外来担当医表をご希望の方は受付にて配布しております。ご利用ください。
- 保険証の窓口確認にご協力お願いします。
- 泌尿器科外来を始めました。毎週月曜日午後から佐々木医師が担当いたします。
- 今回「教えてDr.」を担当した松井医師の診察は毎週木曜日です。

発行者

医療法人 福生会
斎藤労災病院

千葉県千葉市中央区道場南1-12-7

電話 043(227)7437
FAX 043(202)5460

ホームページもご覧下さい

<http://www.saito-rosai.or.jp>

編集後記

暑い日が続きますね！

今回の「まごころ」はいかがでしたか？次号も充実した広報誌の作成に取り組みます。どうぞご期待ください。(M)

当院理事長のご挨拶にもありますが、この夏で当院は開設60年を迎えます。最近当院の古い資料を見る機会があり、周辺環境の変化、医療技術の発達を改めて感じました。この先の医療と当院の未来に期待を込めました。(T)

先日当院の有志で42.195kmのリレーマラソンなる大会に出場した。2チーム出場し、見事完走！「タスキをつなぐ」まさに「チーム連携」である。次の走者に願いを託す。出番を忘れていた！！なんてことは許されない。(匿名編集員)

